

大手門

大手門は大阪城のメインゲートであり城内で最も古い建物の一つである。この門は先の大坂の陣（1614-1615）で大阪城を攻め落とした徳川幕府（1603-1868）による大阪城再建時の1628年に建てられた。多聞櫓が焼失した1783年の落雷などといった数々の危機を免れて今も当時の姿のまま残っており、国の重要文化財に指定されている。

門は高麗門、すなわち文字通り、朝鮮門という意味であり、朝鮮風建築との類似性により名付けられた。門のメインの屋根に加えて、このスタイルの門は二つのより小さな破風造りの屋根（を持った柱）が内側から見て直角に備えられ、開いた門扉を雨風から守る構造になっている。高麗門は城郭だけでなく、仏教寺院や神社でもよく見られる。

大手門の控え柱にも注目してほしい。何世紀かを経るうちに木製の柱の根本が次第に劣化してきたため、大工たちはその劣化した部分のみを交換するため、伝統的な継手技術を使って新しい木をそこにはめ込んだ。門の外側から見て左側の柱は特に上手な継手になっている。